

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

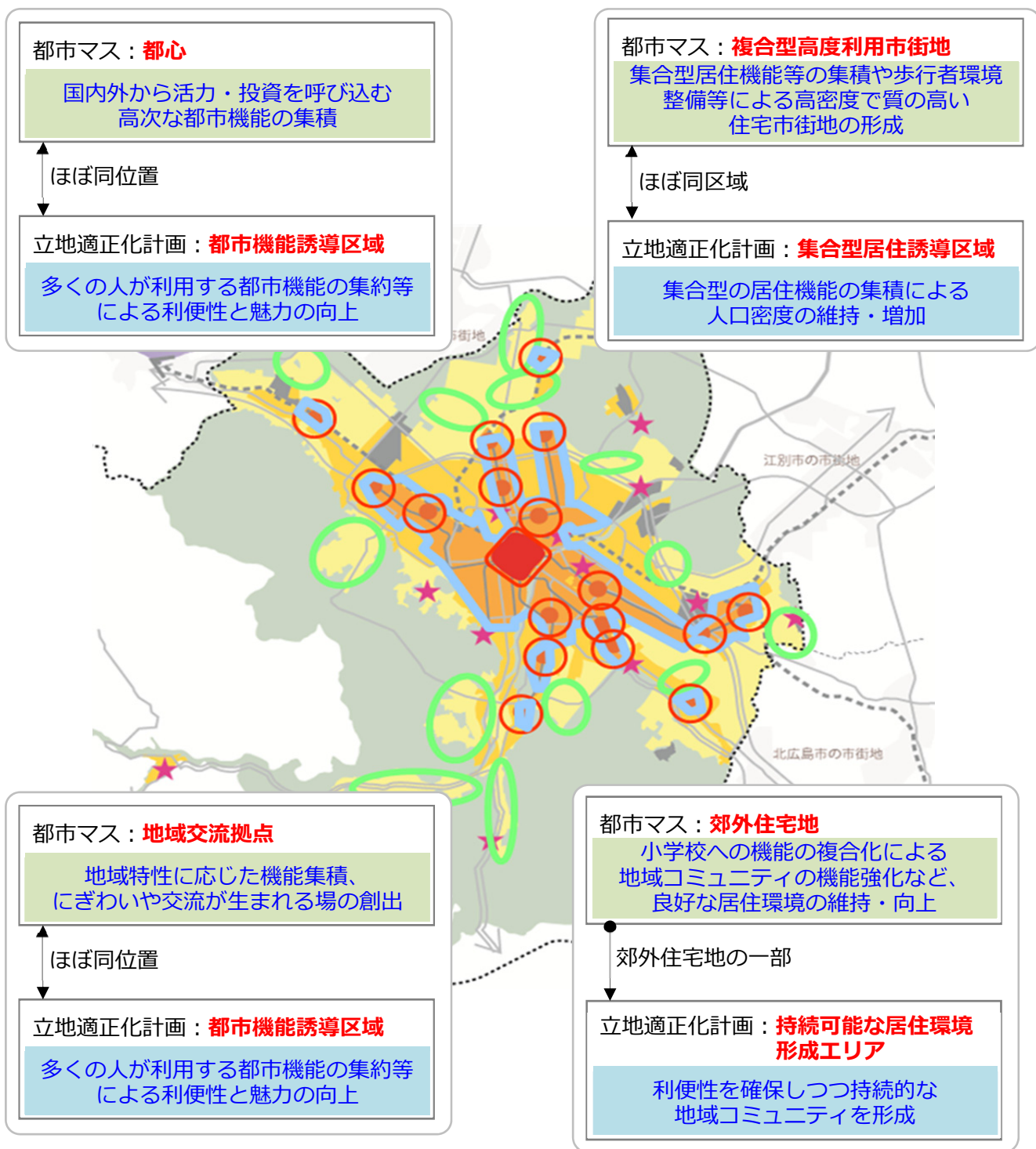
第6章

資料編





資料編






1 第2次札幌市都市計画マスタープランと札幌市立地適正化計画の関係



都市計画マスタープランの市街地区区分

-  都心
-  地域交流拠点
-  高次機能交流拠点
-  複合型高度利用市街地
-  一般住宅地
-  郊外住宅地

立地適正化計画の区域区分

-  集合型居住誘導区域
-  都市機能誘導区域
-  持続可能な居住環境形成エリア

2 策定の経緯

年 月	都市計画審議会	都市計画マスタープラン等見直し検討部会
平成 26 年 (2014 年) 5 月	■ 検討部会設置の決定	【第 2 次札幌市都市計画マスタープランの検討】
6 月	■ 検討部会委員の承認	□ 第 1 回 ・ 前計画の概要 ・ 札幌市の現況・動向・課題 ・ 見直しの論点
7 月		□ 第 2 回 ・ 見直しの検討項目 ・ 今後の進め方
10 月		□ 第 3 回 ・ 都心、拠点、複合型高度利用市街地について
11 月	■ 現状報告	□ 第 4 回 ・ 郊外住宅地、一般住宅地、市街地の外について
12 月		□ 第 5 回 ・ 第 3 回の続き
平成 27 年 (2015 年) 1 月		□ 第 6 回 ・ 第 4 回の続き
3 月		□ 第 7 回 ・ 中間とりまとめ
5 月		□ 第 8 回 ・ 骨子案 (1)
6 月	■ 中間報告	□ 第 8 回 ・ 現状分析、居住誘導の考え方
7 月	■ 骨子案報告	□ 第 9 回 ・ 骨子案
9 月	■ 素案報告 (1)	□ 第 10 回 ・ 素案 (1)
10 月		□ 第 11 回 ・ 素案 (2)
11 月	■ 素案報告 (2)	□ 第 12 回 ・ 計画案
12 月		□ 第 12 回 ・ 計画案
平成 28 年 (2016 年) 1 月	■ 計画案報告	
2 月		□ 第 13 回 ・ 最終案
3 月	■ 最終案報告	□ 第 13 回 ・ 最終案

(参考) 札幌市都市計画マスタープラン等見直し検討部会 委員名簿

<五十音順、敬称略、平成 28 年(2016 年) 3 月 31 日現在>

専攻・分野		氏名	職等
都市計画審議会委員	造園	あいこう てつや 愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院 准教授
	交通計画	たかの しんえい 高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究院 教授
	商工業	なかむら たつや 中村 達也	商工会議所 住宅・不動産部会 部会長
	経済	はまだ やすゆき 濱田 康行	公益財団法人はまなす財団 理事長

専攻・分野		氏名	職等
専門委員	都市計画	こばやし ひでつぐ 小林 英嗣 (部会長)	北海道大学名誉教授 一般社団法人都市・地域共創研究所 代表理事
	低炭素 都市づくり	むらき みき 村木 美貴	千葉大学大学院工学研究科 建築・都市科学専攻 教授

3 市民意見の反映に関わる取組

本計画の策定にあたっては、市民が参加できる様々な機会を設けることにより、都市づくりに対する市民の意識・意向等を把握し、計画の方向性を検討するための参考としました。

いただいたご意見などは、可能な限り本計画に反映しています。

市民参加事業	参加者数	概要
市民アンケート (平成26年9月)	903名	無作為に抽出した3,000名の市民を対象にアンケート調査を実施し、札幌での暮らしに対する評価やこれからのまちづくり、まちづくりの参加意向などについてご意見をいただきました。
子どもアンケート (平成26年10月)	1,363名	市内の小学3～6年生を対象に、住みたい場所や将来の札幌のまちについてご意見をいただきました。
まちづくりワークショップ(第1回) (平成26年12月)	28名	都心、地下鉄駅周辺、郊外住宅地といった、それぞれ特徴を持った市街地ごとに、魅力的なところ、改善すべきところなどについて話し合いました。
子ども議会 (平成27年1月)	65名	「誰もが快適に暮らしやすいまちにするためには、どんなところにどんなものがあるといいか考えよう」という共通テーマについて子ども議員が議論し、市長等と今後の都市づくりなどについて意見交換しました。
これからの都市づくりを考える パネル展 (平成27年7～8月)	207名 (市役所ロビー 見学者)	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方について、市役所ロビーや区役所等でパネルの展示を行い、来場者からのご意見を募りました。
まちづくりワークショップ(第2回) (平成27年8月)	16名	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方についてご意見をいただきました。

3-1 市民アンケート

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、主に居住環境やこれからの都市づくりのあり方について、より多くの市民の意識・意向を把握することを目的とし、アンケート調査を実施しました。

(1) 実施概要

①実施時期

平成26年9月12日(金)～平成26年9月30日(火)

※集計は、平成26年11月26日(水)回収分までについて行いました。

②調査対象

札幌市民のうち、無作為抽出された18歳以上の男女3,000名

③調査方法

郵送により調査票を配布・回収

④回収結果

903名 (回収率30.1%)

(2) 調査結果の概要

①札幌での暮らしについて

- ・居住環境に対しては、買い物・通院や交通などの「生活利便性」を最も重視しており、今後は利便性の高い地域へ住みたいという回答者が多い。
- ・一方で、郊外住宅地に住む回答者には、今後も一般・郊外住宅地での居住を望んでいる人が多い。
- ・居住環境に対しては、安全性を重視する回答者も多く、若い世代は「治安」、高齢者は「防災」を重視する傾向がみられる。
- ・約8割の回答者が、現在住んでいる場所に満足し住み続けることを望んでおり、約1割が、市内での移転を望んでいる。
- ・主な交通手段は、「自家用車」が最も多い。
- ・交通利便性の高い場所に移り住む場合には、約8割が、「公共交通の利用を心がける」と回答。
- ・「札幌らしい景観」とは、「山並みや河川、まちの眺望、緑豊かな街並み」であり、「公共建築物・公園・道路などの公共整備において、景観配慮が必要だ」という回答が多い。

②これからのまちづくりについて

- ・人口が減少するなかでの「市街地のあり方」について、約6割が「市街地を拡大しない」、約3割が「中長期的に狭める」と回答。
- ・「冬の快適な暮らし」、「災害に強いまち」、「省エネで環境に優しいまち」が今後望まれている。
- ・今後の取組として、地下鉄駅周辺などへの利便施設等の集積を求める回答が多い。

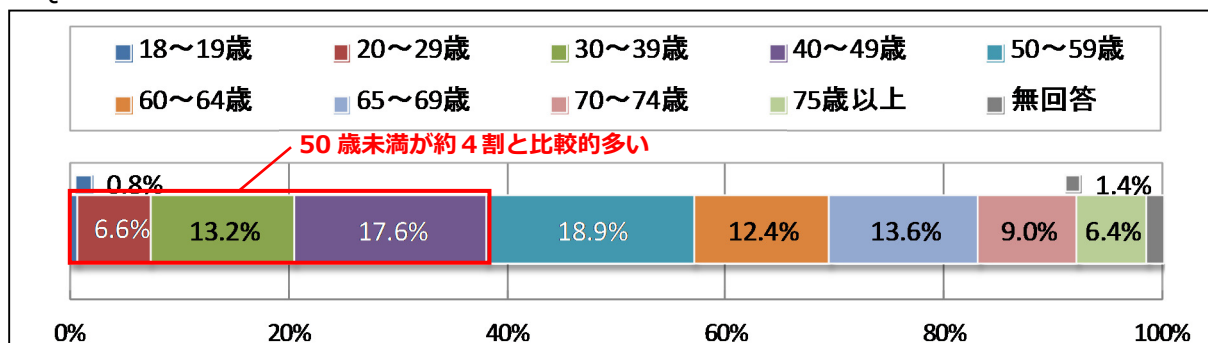
③まちづくりへの参加について

- ・まちづくり活動へ参加した経験がある回答者は約3割であり、高齢になるほど参加した経験がある人の割合が高い。
- ・今後は、アンケートの協力などにより参加したいという回答者が多い。

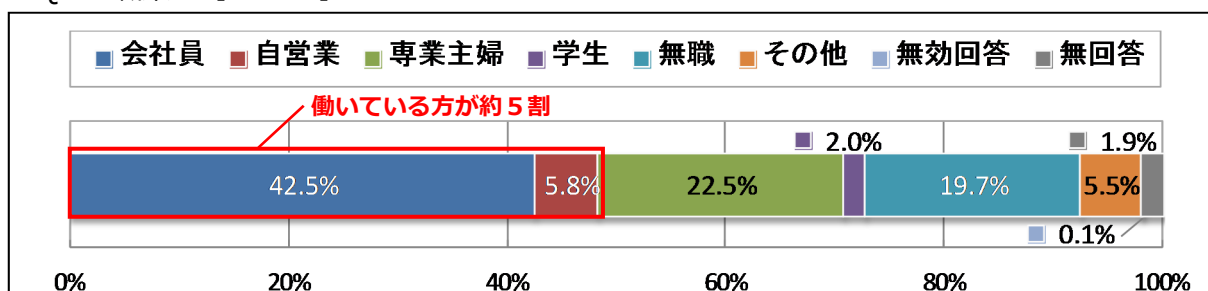
(3) 調査結果

【問1】回答者自身のことについて

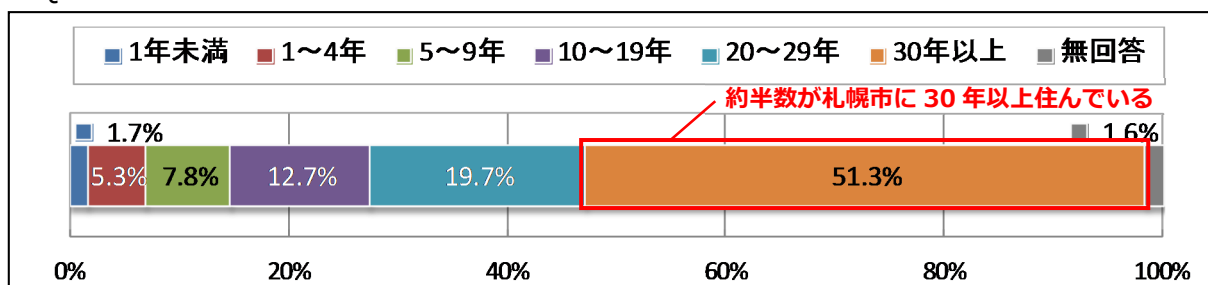
Q1. 年齢 【n=903】



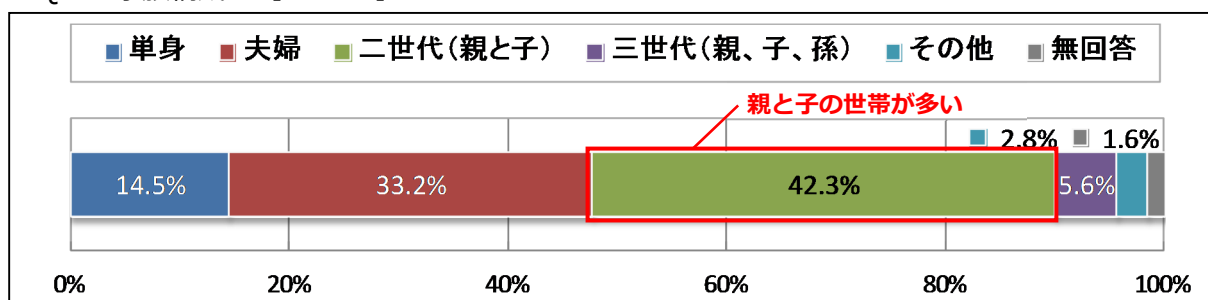
Q4. 職業 【n=903】



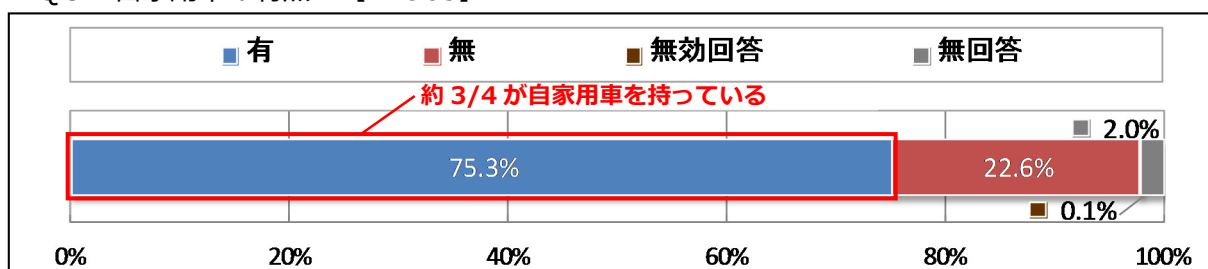
Q5. 札幌市での居住年数 【n=903】



Q6. 家族構成 【n=903】



Q8. 自家用車の有無 【n=903】

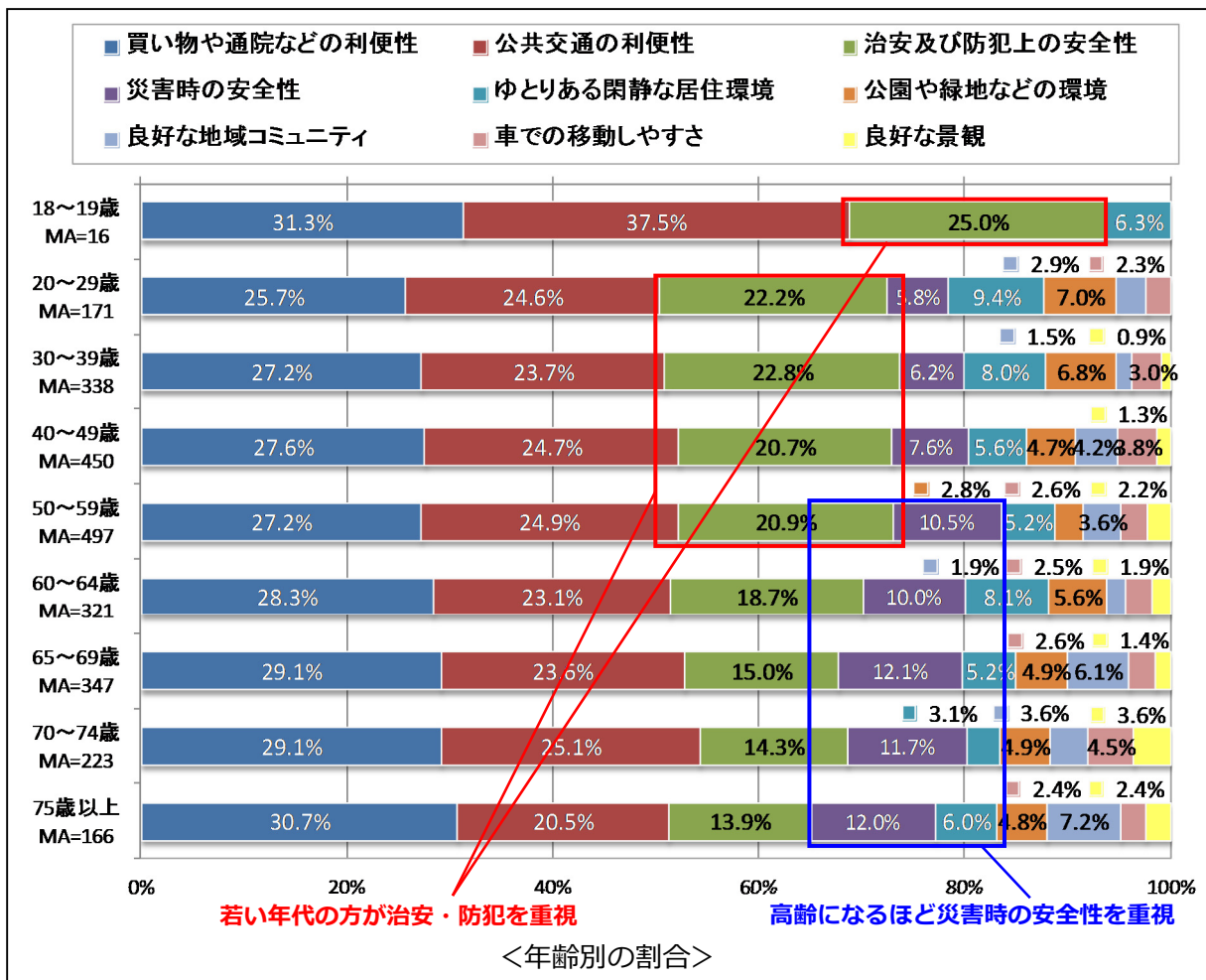
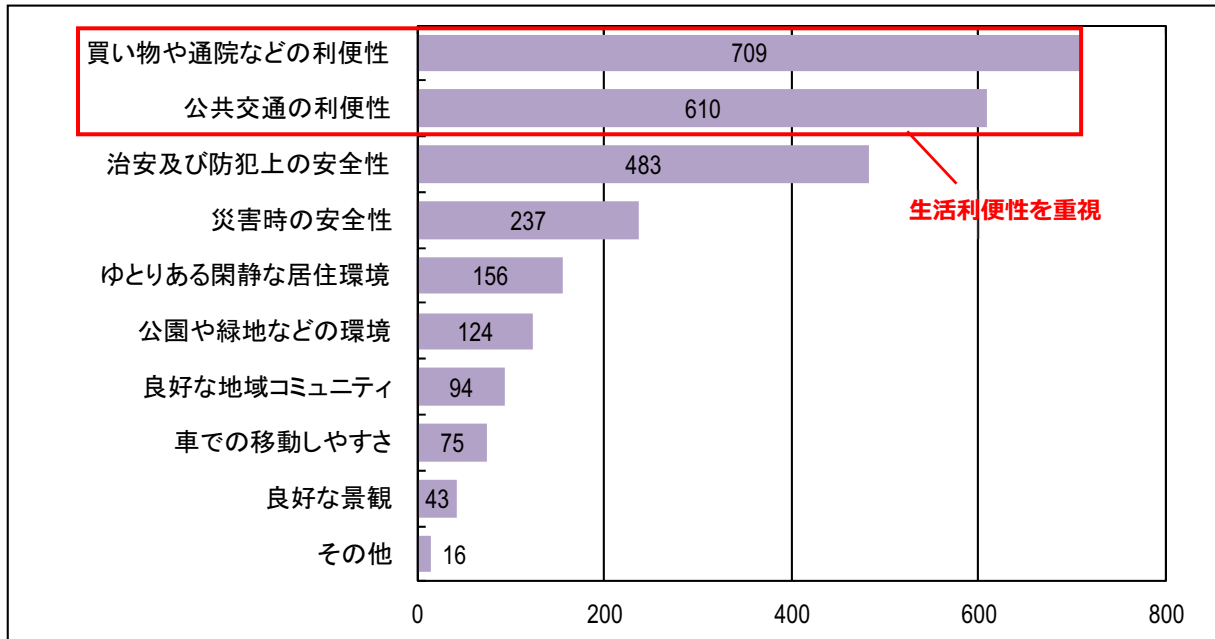


【問2】札幌市での暮らしについて

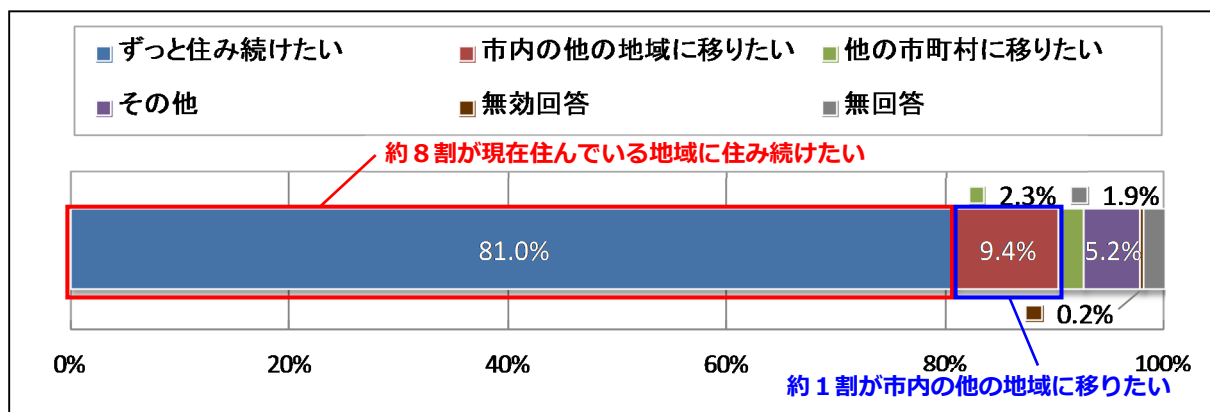
(1) 住まいや暮らしについて

Q1. 居住環境として重要と考える項目は何ですか。(主なもの3つまで選択可)

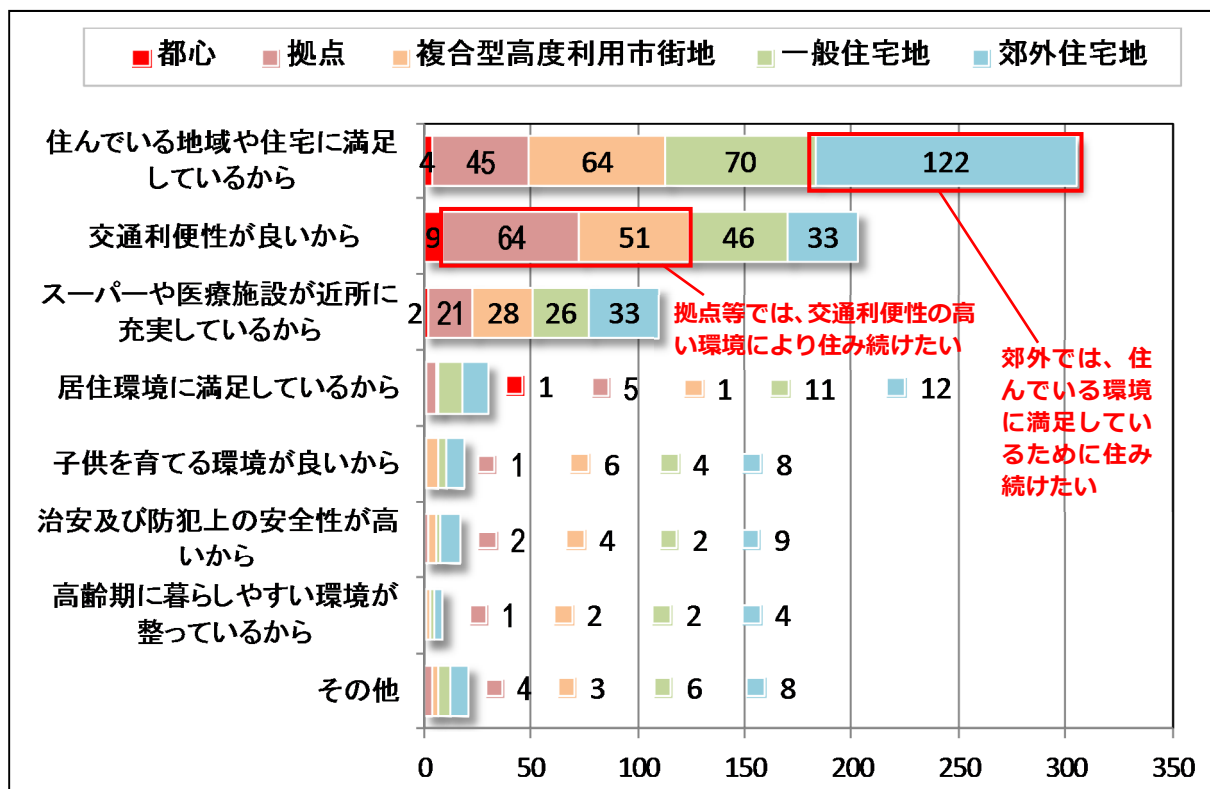
[n=883、MT=2,556]



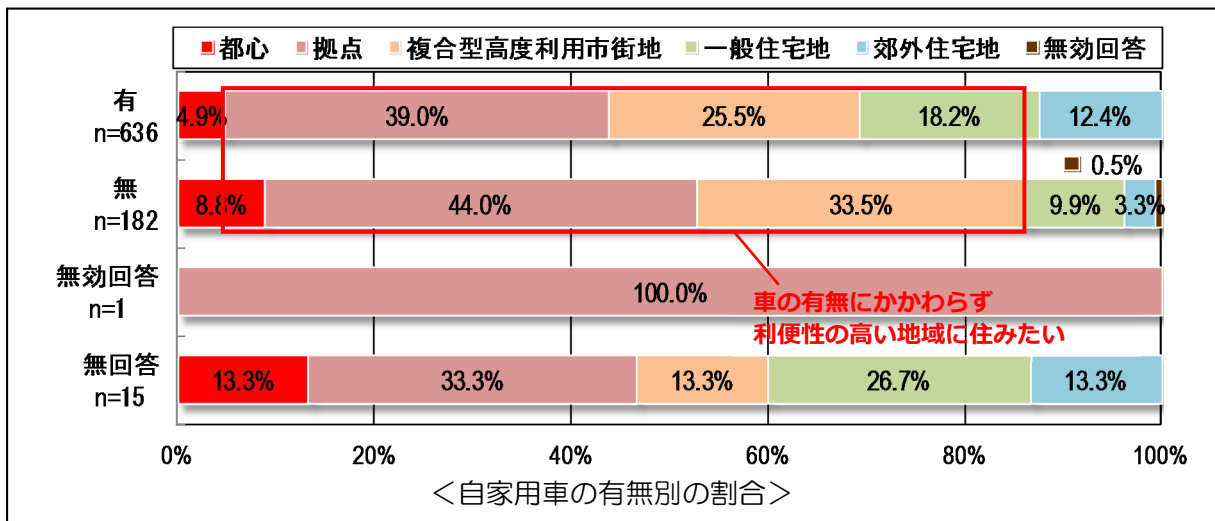
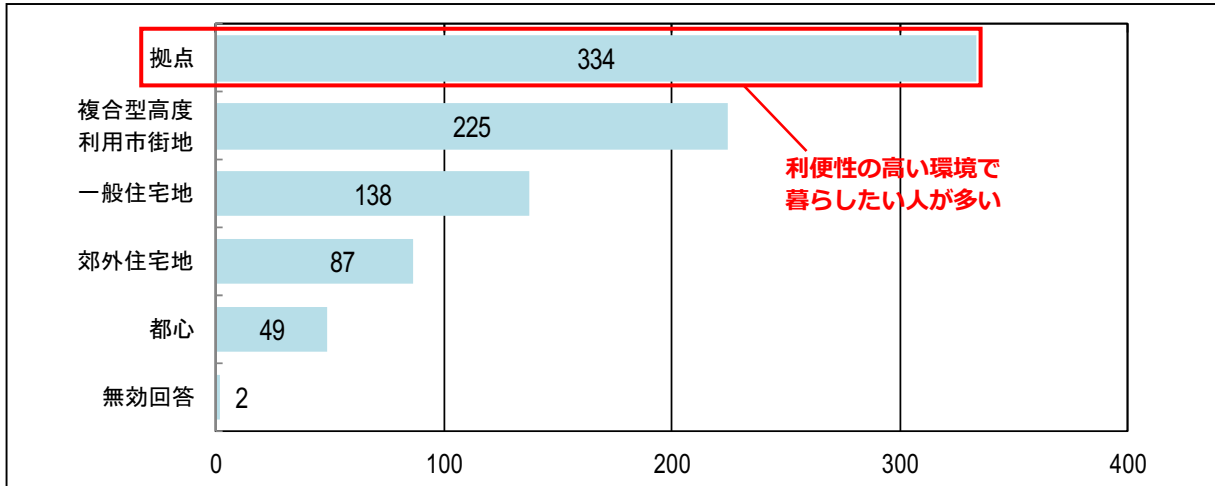
Q2. 今後も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。【n=903】



Q3. ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。（優先順位の一番高いもの）【n=731】

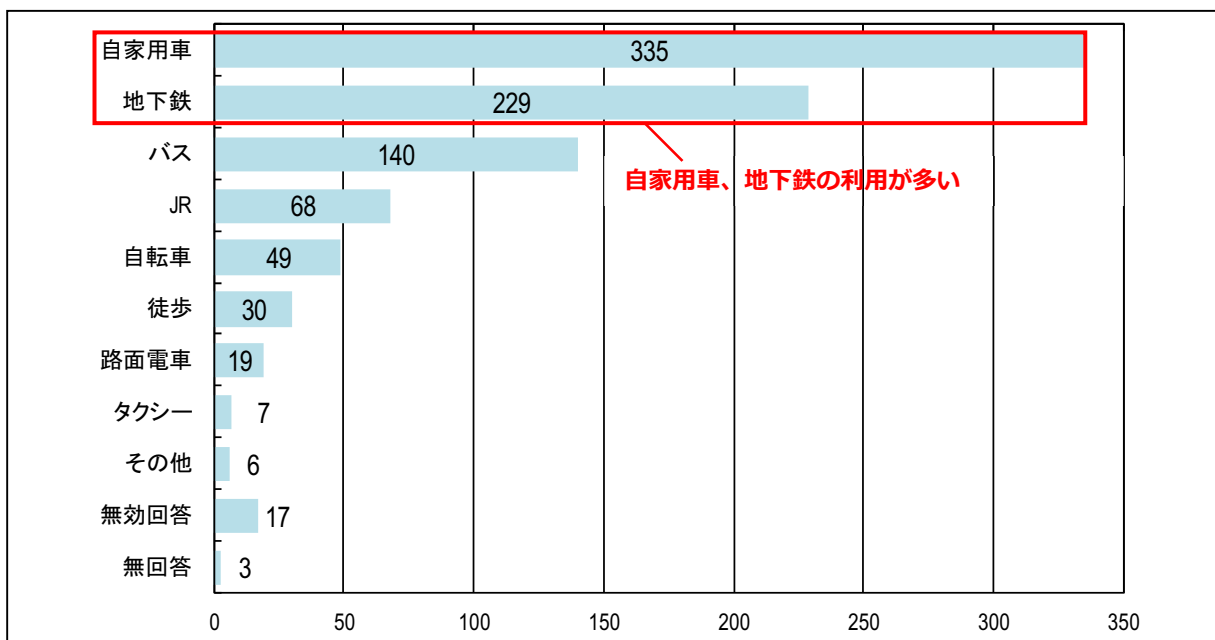


Q5. あなたが住みたいと思う場所は、どのような地域ですか。【n=834】



(2) 交通手段について

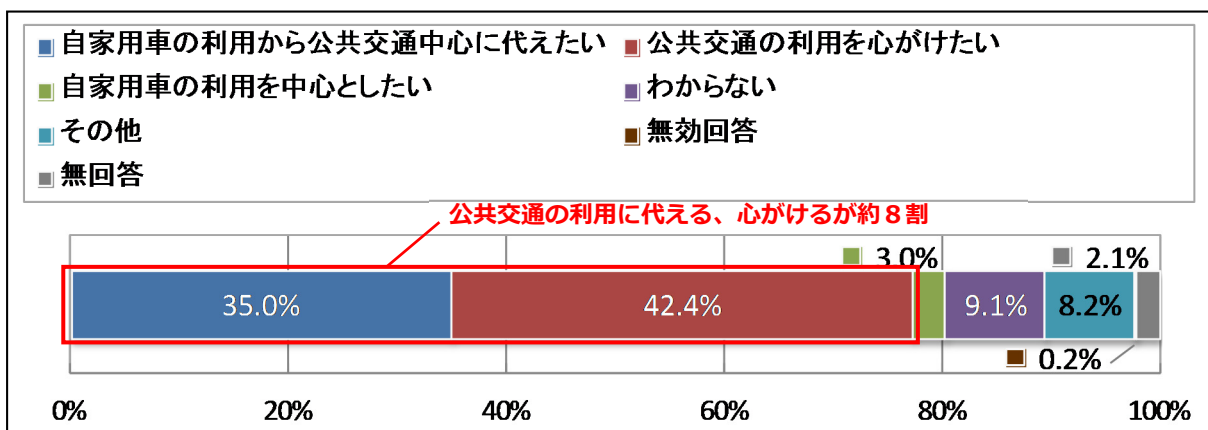
Q1. 現在、最も多く利用する交通手段は何ですか。【n=903】



第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章

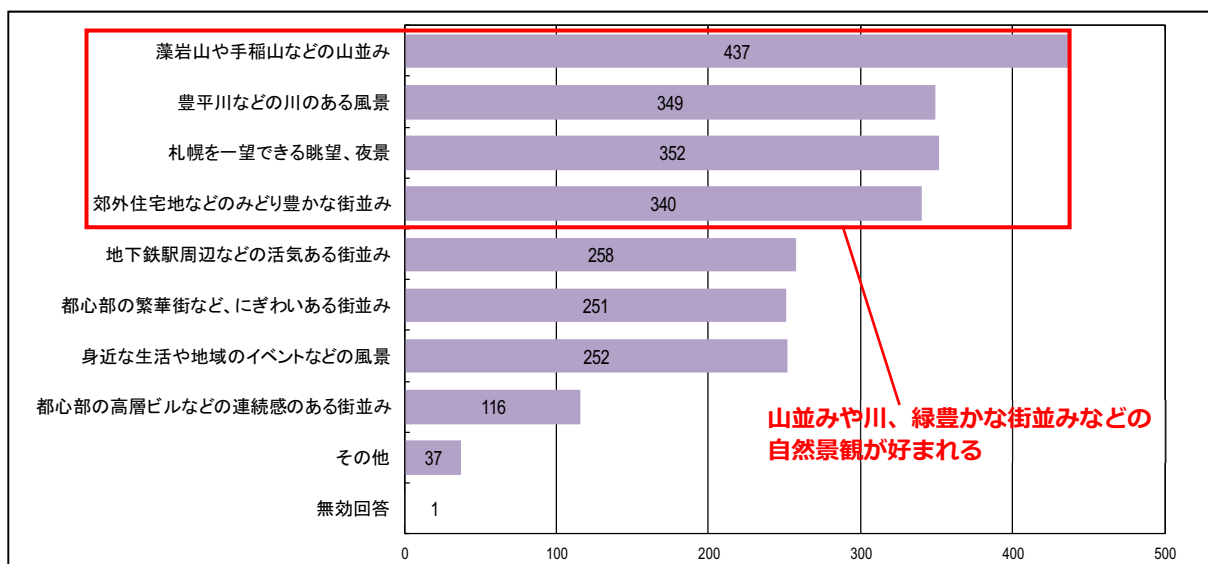
資料編

Q2. 都心、駅周辺などの公共交通の利便性の高い場所へ移り住んだ場合、移動手段についてどのように考えますか。【n=903】



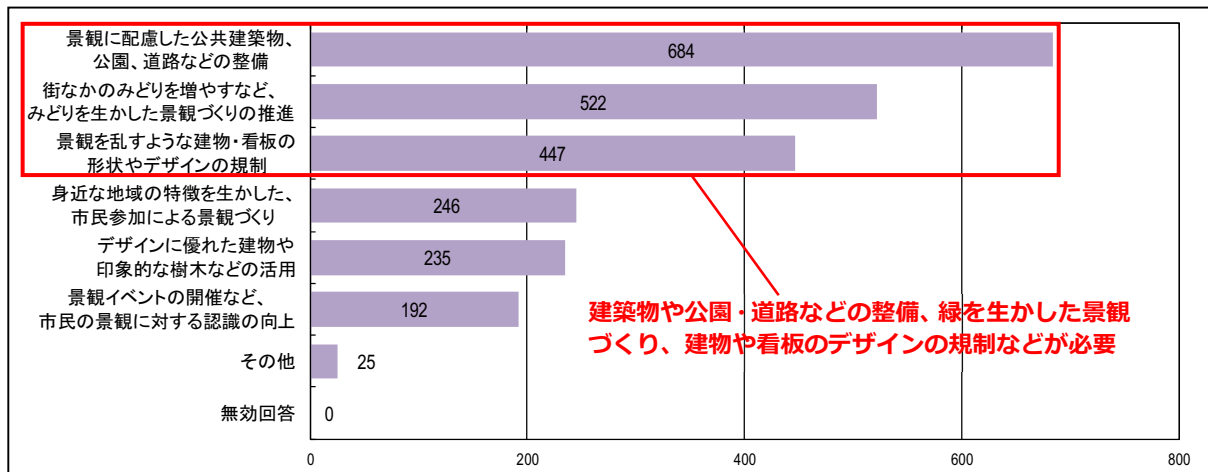
(3) まちの景観について（あてはまるもの3つまで選択可）

Q1. 札幌市らしい魅力のある景観だと思うものは何ですか。【n=903、MT=2393】



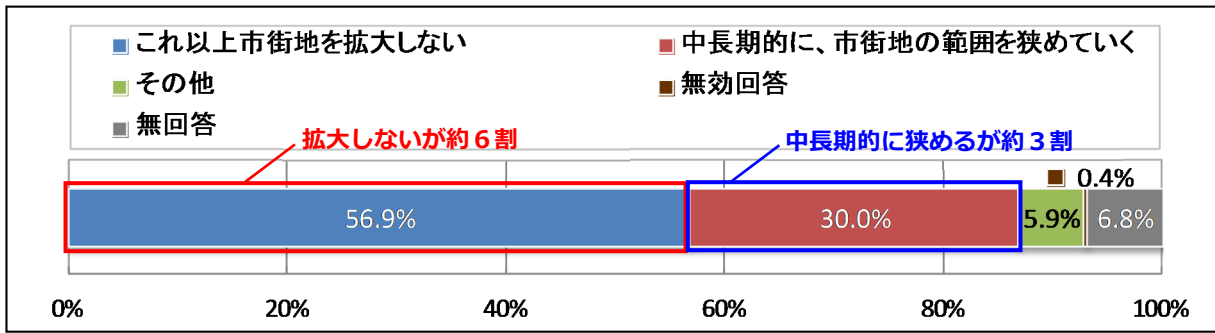
Q2. 魅力ある景観を守り向上していくため、必要だと思う取組は何ですか。

【n=903、MT=2351】



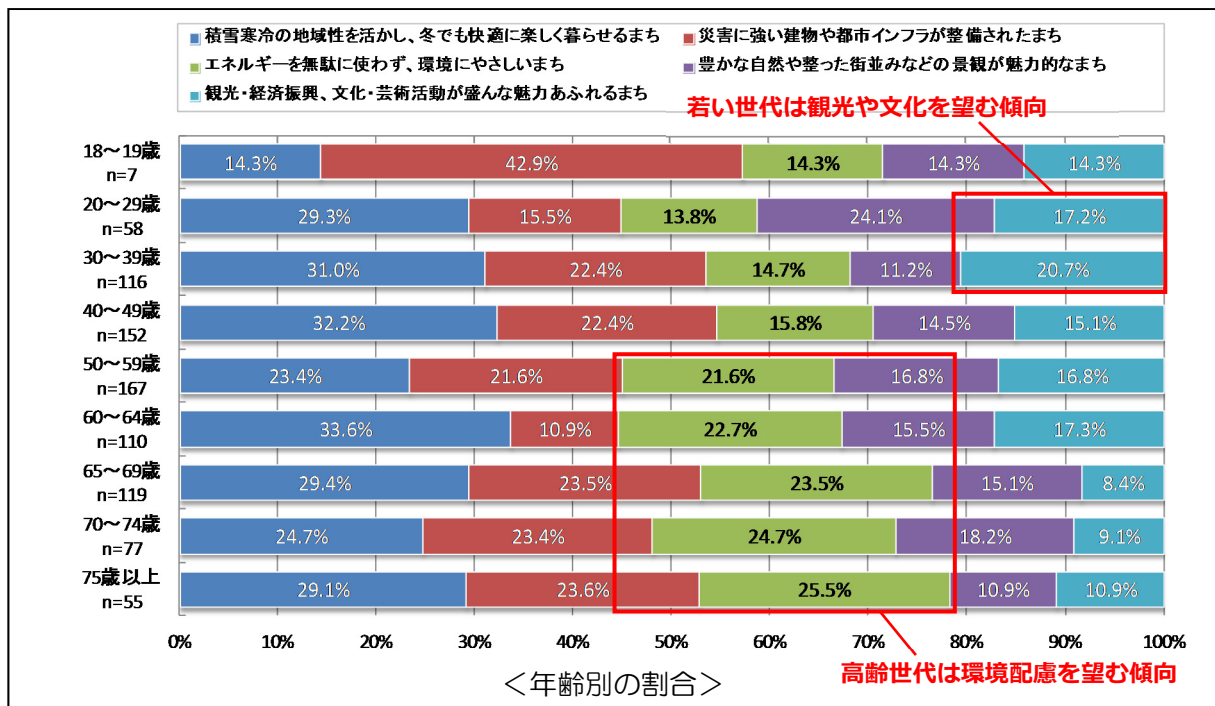
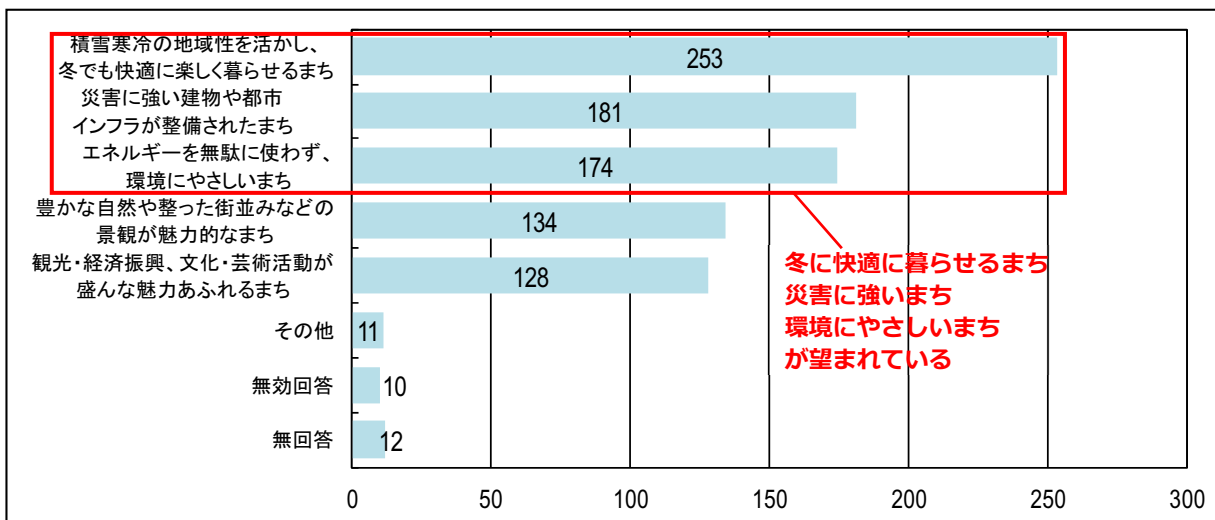
【問3】 これからのまちづくりについて

Q1. 今後の人口減少を想定した場合、市街地のあり方についてどのように考えますか。【n=903】



Q2. 今後、札幌市はどのようなまちであってほしいと思いますか。

(優先順位が一番高いもの) 【n=891】

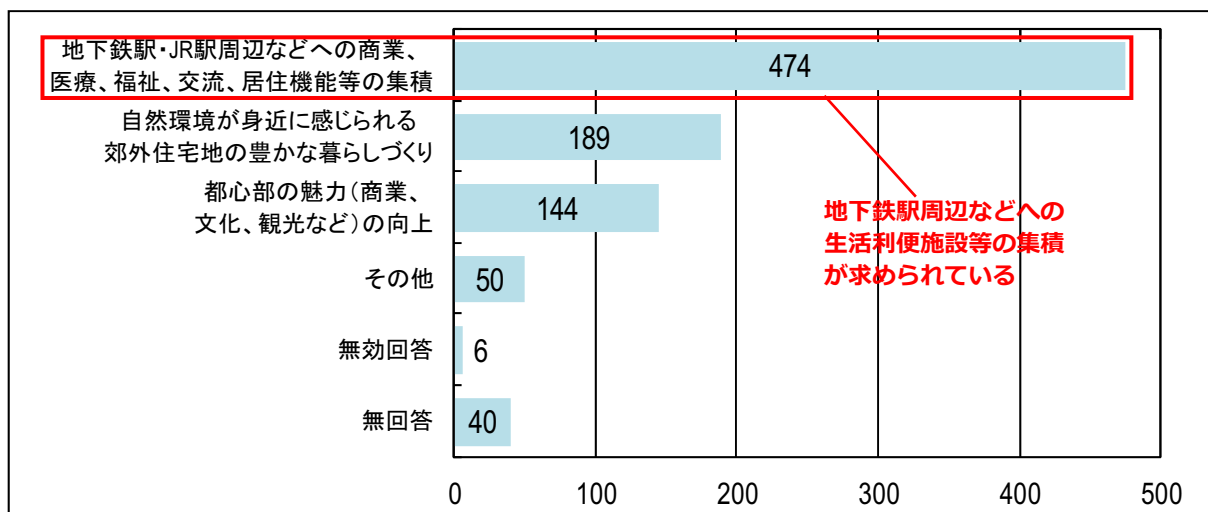


<年齢別の割合>

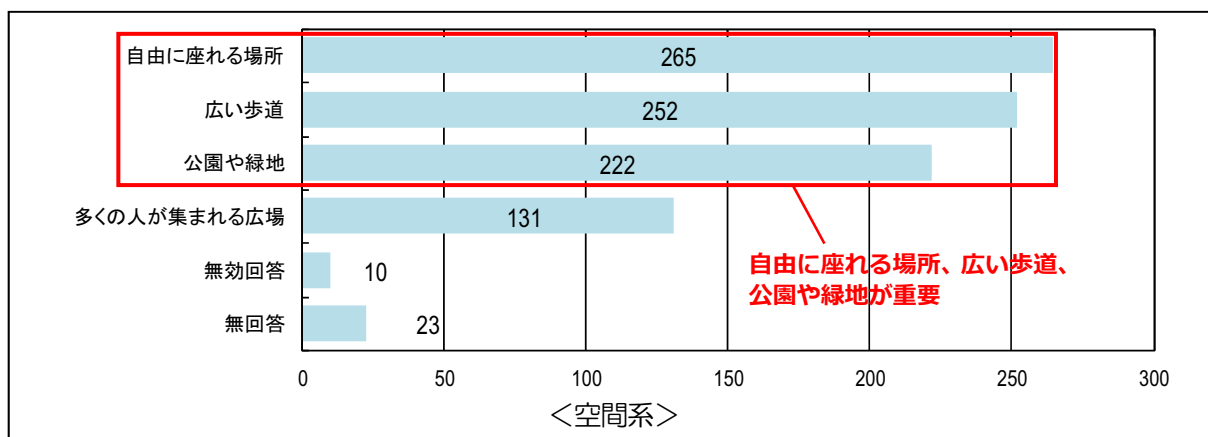
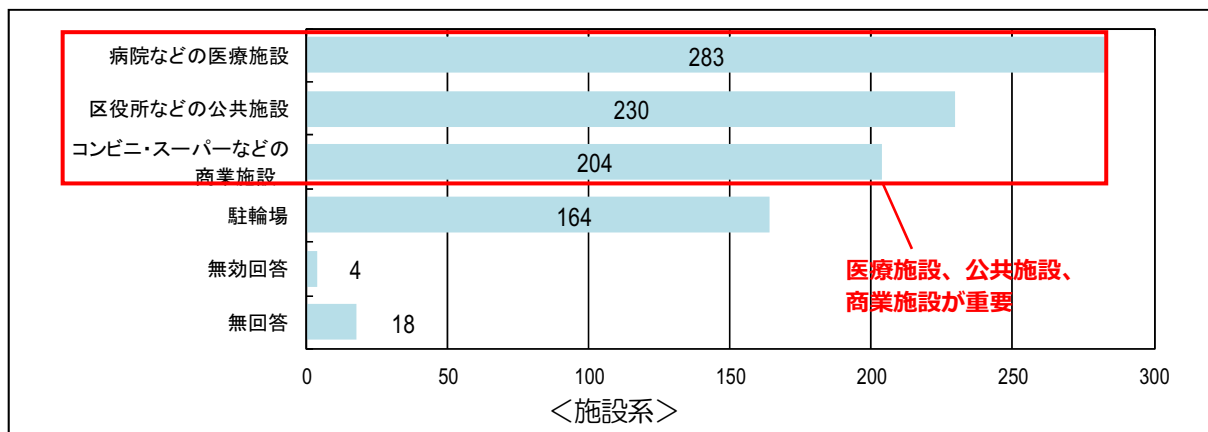
高齢世代は環境配慮を望む傾向

若い世代は観光や文化を望む傾向

Q3. 今後、札幌市の都市づくりを進める際に、どのようなところに力を入れていくべきだと思いますか。【n=903】

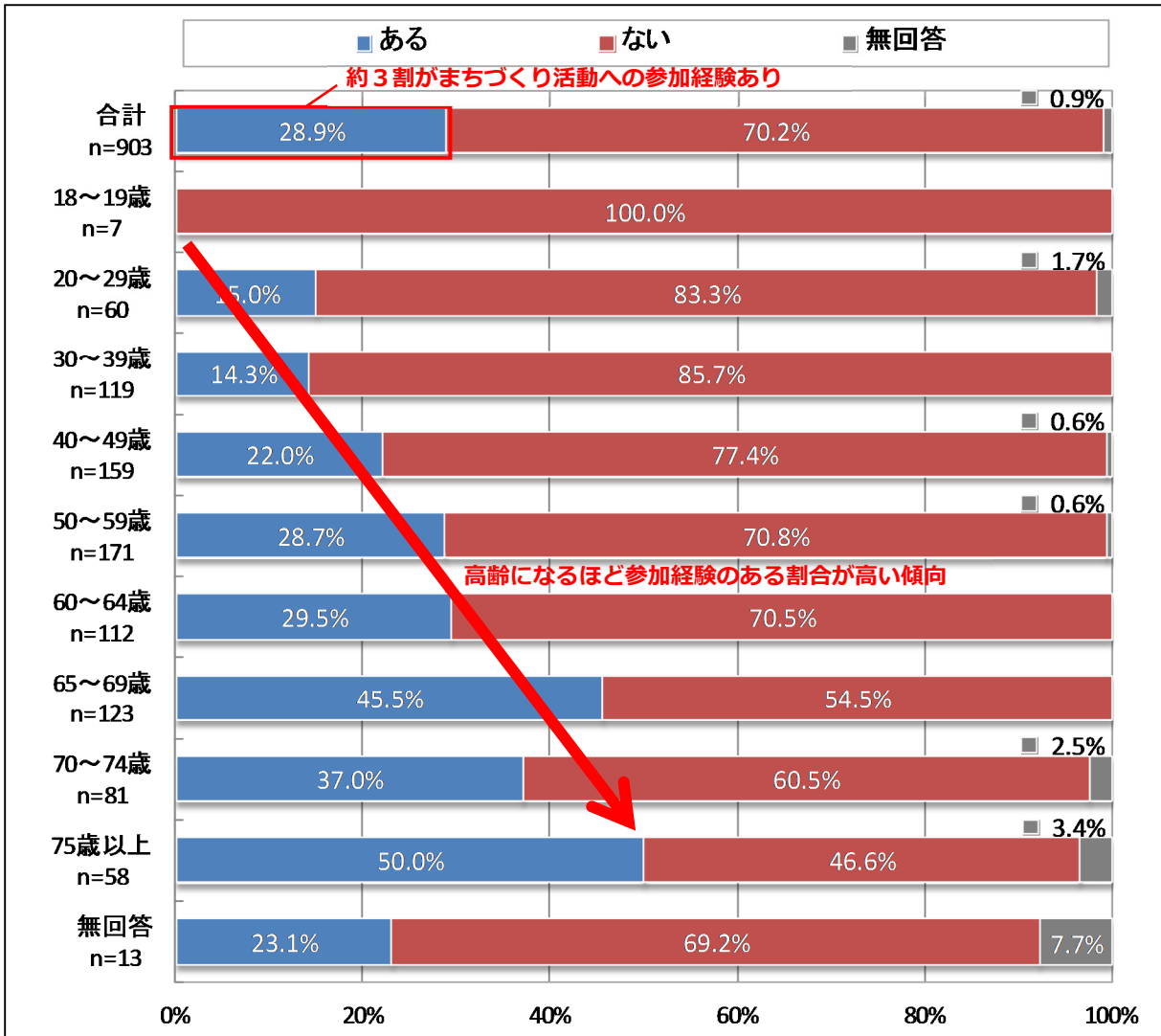


Q4. 地下鉄駅やJR駅の周辺に重要だと思う施設は何ですか。【n=903】

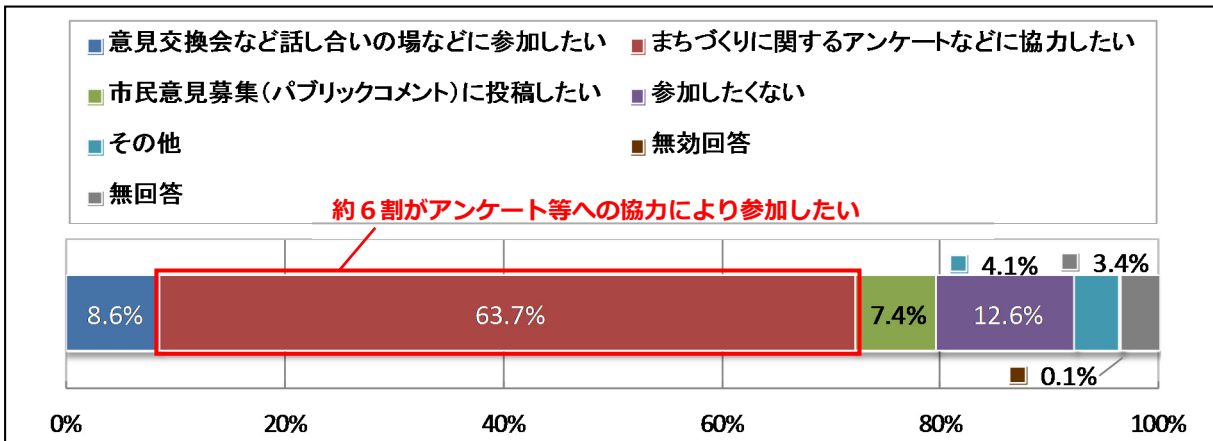


【問4】まちづくりへの参加について

Q1. 今まで、市政運営に関する町内会活動を含む様々な取組やまちづくり活動へ参加したことがありますか。【n=903】



Q2. 住みよい地域をつくるためのまちづくり活動について、今後、参加したいと思うものは何ですか。【n=903】



3-2 子どもアンケート

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、次世代を担う子どもの柔軟な視点や新たな発想で札幌のまちについて考え、都市づくりに対する認識を深めていただくことを目的とし、アンケート調査を実施しました。

(1) 実施概要

①実施時期

平成26年10月15日(水)～平成26年11月10日(月)

②調査対象

平成26年度に都市計画制度普及事業(ミニまち講座・まちなみ案内)を活用した小学校の児童(3～6年生)

③回収結果

1,363名 (回収率:95.3%)

(2) 調査結果の概要

①現在住んでいる場所について

- ・約7割の回答者が、現在住んでいる場所に満足し、大人になっても住み続けることを望んでいる。
- ・現在住んでいる場所に住み続けたいという回答は、郊外住宅地の回答者に多い傾向がある。
- ・約3割が、「現在住んでいる場所に住み続けたくない」という回答であり、「住んでいる場所が好きではない」という理由のほか、「いろいろなところに住んでみたい」、「親から離れて暮らしてみたい」などの理由があげられる。

②今後住みたい場所

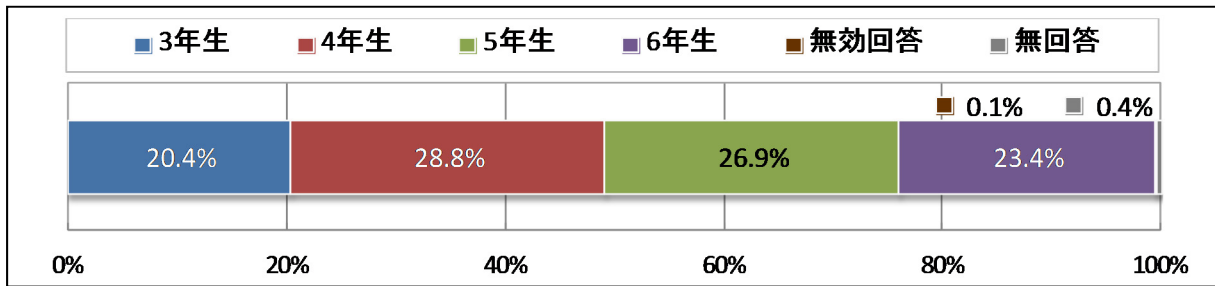
- ・自然が身近にある静かな住宅地(郊外住宅地)での居住意向が高くみられる。
- ・地下鉄駅周辺などの利便性の良い地域に住む回答者は、利便性の高い場所への居住意向が比較的高くなっている。

③今後のまちづくり

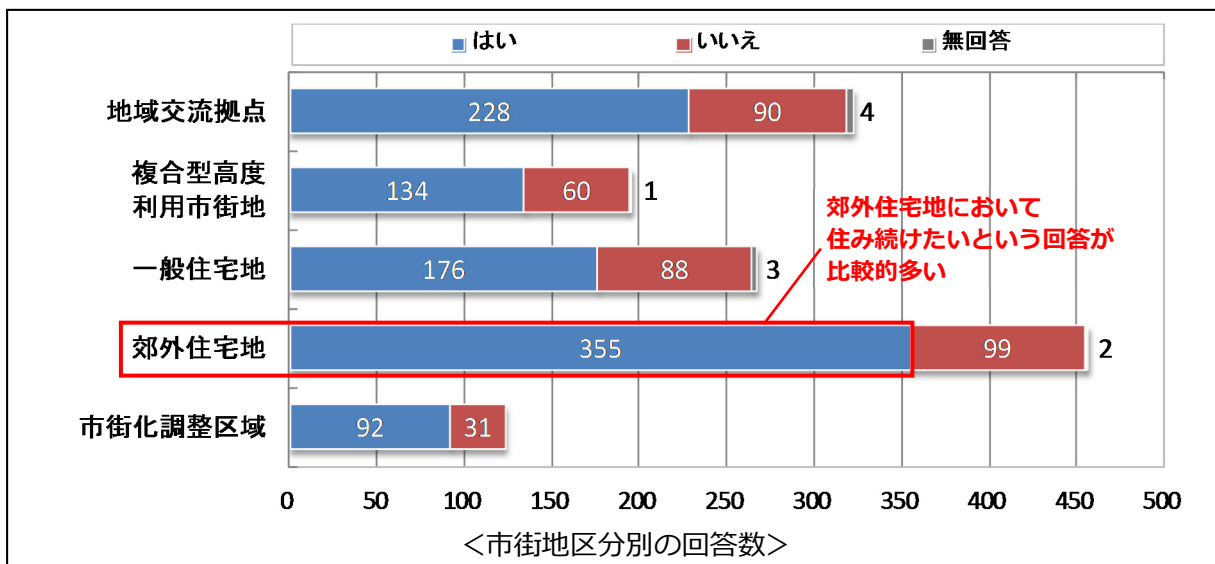
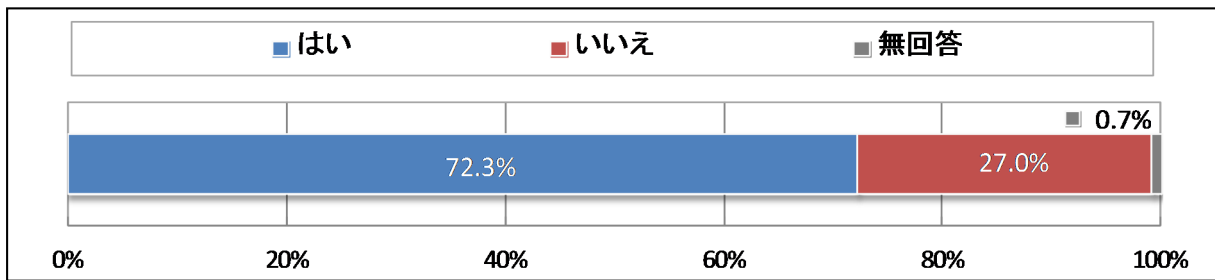
- ・「災害に強いまち」が最も望まれており、続いて、「環境に優しいエコなまち」、「まちの景色が美しいまち」が望まれている。

(3) 調査結果

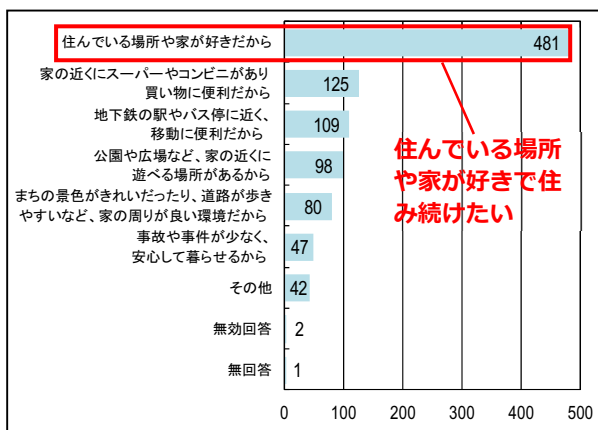
Q1. あなたは、何年生ですか。【n=1,363】



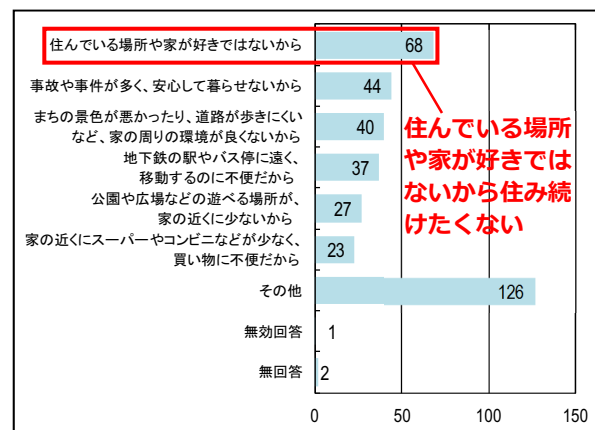
Q3. あなたは、大人になっても今住んでいる場所に住み続けたいですか。【n=1,363】



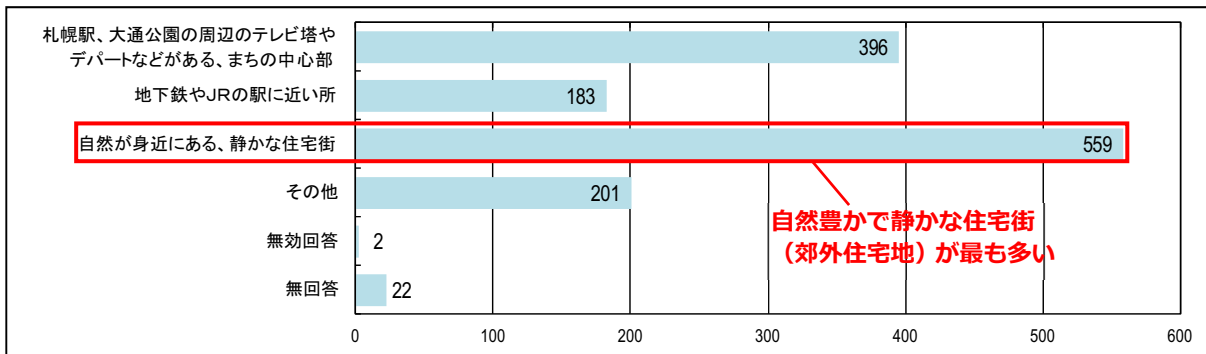
Q4. 住み続けたいと思う理由は何ですか。
(優先順位が一番高いもの) 【n=985】



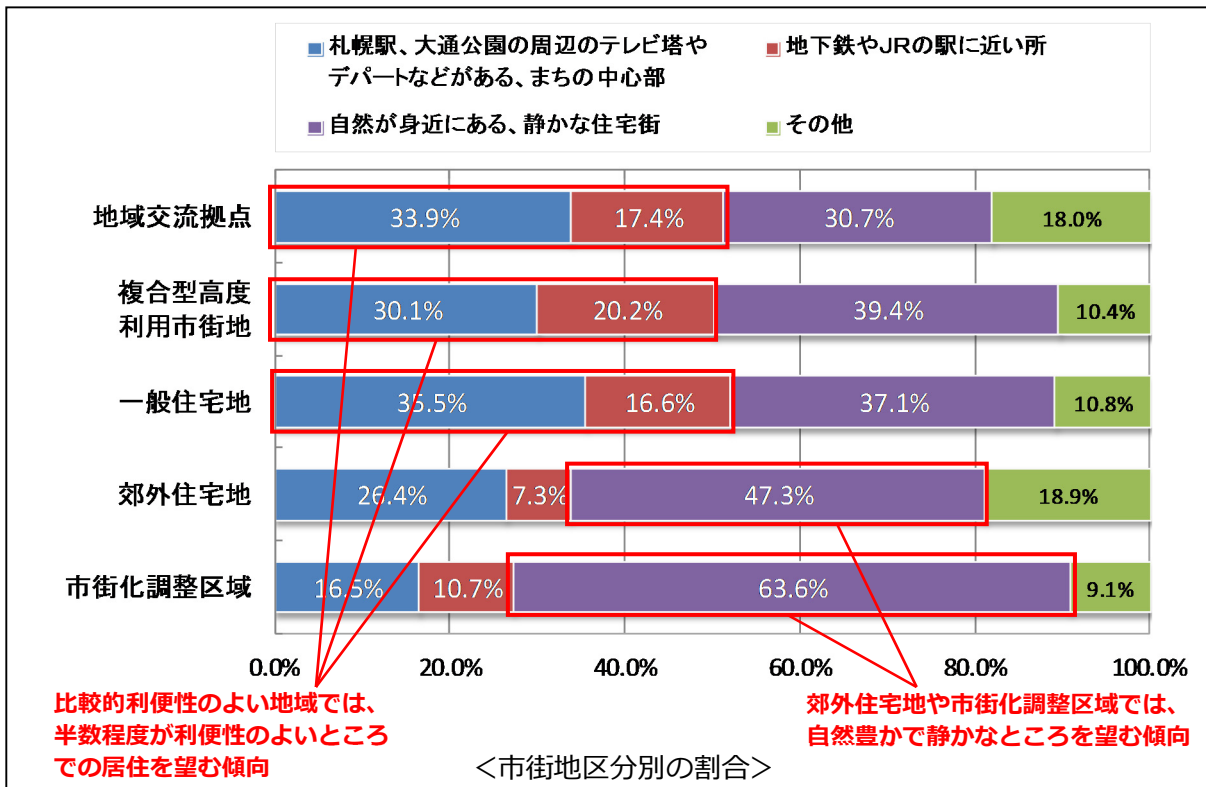
Q5. 住み続けたいと思わない理由は何ですか。
(優先順位が一番高いもの) 【n=368】



Q6. あなたが大人になったときに住みたいと思う場所は、次のうちどれですか。



自然豊かで静かな住宅街(郊外住宅地)が最も多い



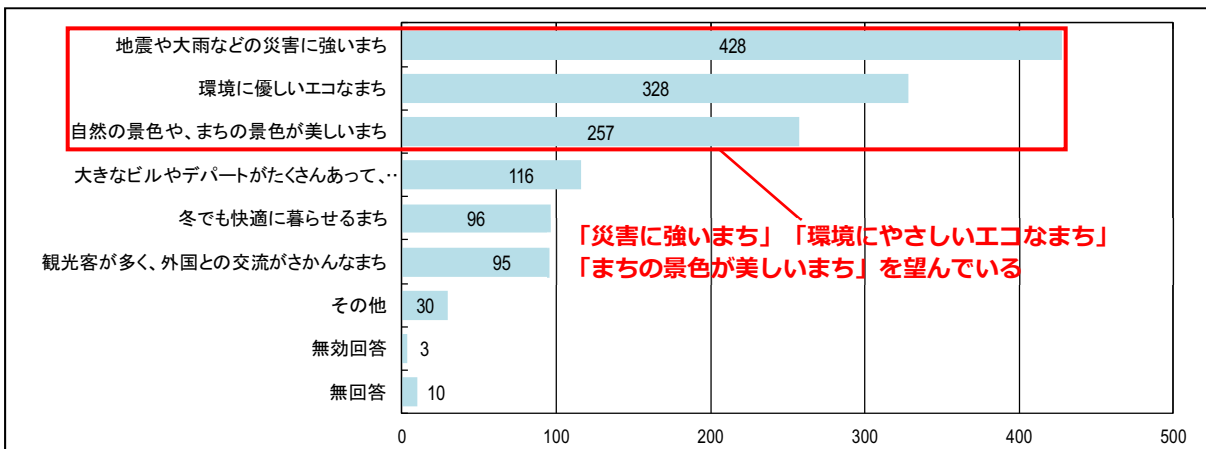
比較的利便性のよい地域では、半数程度が利便性のよいところでの居住を望む傾向

郊外住宅地や市街化調整区域では、自然豊かで静かなところを望む傾向

<市街地区別の割合>

Q7. これからの札幌市が、どのようなまちになってほしいと思いますか。

(優先順位が一番高いもの) 【n=1,363】



「災害に強いまち」「環境にやさしいエコなまち」「まちの景色が美しいまち」を望んでいる

3-3 まちづくりワークショップ（第1回）

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、これからの都市づくりの方針や取組の方向性について、ワークショップ形式で検討し、得られた市民の意見や提案を、見直しの方向性を検討するに当たっての参考としました。

（1）実施概要

①日時・場所

平成26年12月6日（土） 10時～12時
札幌市民ホール 第1・2会議室

②参加者

28名
※市民アンケートに回答された方（903名）のうち、ワークショップへの参加を希望した70名の方の中から、性別・年齢・居住地のバランスを考慮して選出しました。

③実施方法

参加者を、年齢・性別・居住地等について偏りがないう5つのグループに分け、「都心」・「地下鉄駅周辺」・「郊外住宅地」といった市街地ごとに、「良いところ」・「悪いところ」・「今後必要な取組」について意見を出し合いました。

開催に当たっては、都市づくりに関する情報提供として、ワークショップの前段でオリエンテーションを行ったほか、開催3日前の12月3日（水）には、参加予定者を対象とした事前勉強会を開催しました。

<ワークショップの流れ>



都市の現状と課題を説明



グループ討議



グループの討議結果発表

(2) 結果概要

市街地の種類	強み・長所	弱み・短所	意見の概要（今後必要なこと）
都心	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な機能が集積しており、暮らしやすい ○イベントが楽しめる ○食や芸術・文化が充実している ○大通公園に緑が多く、季節によって景観が変化する 	<ul style="list-style-type: none"> ○スーパーが少ない ○高齢者や障がい者も使える多目的トイレが少ない ○交通量が多いため、渋滞が発生している ○パチンコ店の立地や量販店の看板等により、景観が損なわれている場所がある 	<p>多様な機能とイベント等により、多くの人が集まる場所という強みがあることから、市民だけではなく、観光客にとっても魅力的な場所となるよう、大通公園の緑化による季節感の演出・市民意見を取り入れた景観づくりなど、魅力ある都心空間を創出するための取組が必要。</p> <p>また、高齢者や障がい者のまち歩きを支えるため、エレベーターや多目的トイレをより多く設置すべき。</p>
地下鉄駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ○交通利便性・生活利便性が高く、暮らしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域によってにぎわいや生活利便性、暮らしやすさの評価が異なる 	<p>全般的に利便性の高さが強みだが、駅によっては周辺のにぎわいや生活利便性の評価が低いところがある。そのため、地域の実情に配慮した上で各機能を配置する必要がある。</p> <p>また、駐車場の整備・地下鉄駅からの巡回バスの運行等により郊外住宅地とのアクセス強化を図るなど 交通利便性の更なる向上を図る取組が必要。</p>
郊外住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺の自然やみどりが豊か ○公園が充実している ○大型店舗が近隣にあれば、買い物が便利 ○都心と郊外を繋ぐ自転車道が便利 	<ul style="list-style-type: none"> ○空き地・空き家が増えたことにより、景観が損なわれている所がある ○バスの便数が少ないなど、交通利便性が低い ○買い物できる店舗が近隣に無いなど、生活利便性の低い地域がある ○マイカーへの依存度が高く、冬は渋滞が発生する 	<p>空き地・空き家が増加していることや、交通利便性及び生活利便性の低い地域が一部みられることが弱みとして挙げられたことから、空き家の有効活用に係る取組や、バス便数の増加といった公共交通の充実による交通利便性向上のための取組が必要。</p> <p>また、他の市街地区分と比較して高齢化が進む地域も多いことから、車を使わなくても暮らせる環境の整備、高齢者が冬でも快適に歩ける環境の整備が必要。</p>
共通	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に恵まれ、北海道の中心都市として芸術・文化など様々な機能が充実している ○計画的に整備されたまちなみが特徴的である 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な交流の場や気軽に休憩できるスペースが少ない ○高齢者に配慮した設備の不足や冬季の路面状況から、高齢者の外出に課題がある 	<p>地域の交流の場や、休憩スペースの少なさが弱みとして挙げられたことから、地域の人材・施設など、地域資源を活用した多世代交流空間の創出や、使いやすい休憩スペースの整備が必要。</p> <p>さらに、今後の少子高齢化を見据え、保育所・託児所等の子育て支援機能の配置、冬季における歩行空間の改善、車がなくても暮らせる環境の整備が必要。</p> <p>環境に配慮した取組としては、カーシェアリングや公共交通の利用促進、公共施設・交通機関の低炭素化などがあげられる。</p> <p>また、歩いて暮らせる環境、車に頼らない暮らしを実現するためには、市民の価値観・生活スタイルを見直すことも重要な要素である。</p>